

知事記者会見の概要

日 時：令和2年4月10日(金) 15:30～15:55

場 所：記者会見室

出席者：知事、健康福祉部長、医療統括監、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：17名、テレビカメラ7台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 県内における新型コロナウイルス感染症の確認事例について（第28～32例）

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

本県の28例目から32例目となる新型コロナウイルス感染者が確認されましたのでお知らせをいたします。

感染者28は、50代の女性で、米沢市にお住まいの従業員の方です。4月6日の午後からお休みされています。4月6日に腹痛と下痢、咳があり、医療機関を受診されました。7日に37℃台の発熱がありました。

次に、感染者29は、50代の女性で、米沢市にお住まいの従業員の方です。4月6日の午後からお休みされています。4月7日から9日に37℃から38℃台の発熱がありました。

次に、感染者30は、50代女性で、南陽市にお住まいの従業員の方です。4月7日からお休みされています。4月7日から9日に咳がありました。

なお、感染者28、29、30、この方々は、先に公表している、感染者16の同僚です。行動歴、濃厚接触者につきましては、現在調査中です。そして現在、感染症指定医療機関に入院されています。

次に、感染者31、40代の女性と、感染者32、10代の女性は、先に公表した感染者22の同居ご家族です。感染者31の40代女性は、会社員で、4月3日からお休みされています。症状、行動歴、濃厚接触者につきましては、現在調査中です。そして現在、感染症指定医療機関に入院中でございます。

連日感染が確認されておりますが、県民の皆様には、くれぐれも冷静に落ち着いた行動を取っていただきたいと思っております。そして、丁寧な手洗いと咳エチケット、これ、本当に基本的なことですので、ぜひこれからも引き続き続けてくださるようお願いいたします。

それから3つの「密」ですね、密閉、密集、密接、これは避けてくださるようお願いいたします。換気をしていただくこと、また、たくさん集まらない、そして近くで話さない、ということですので、しっかり守っていただきたいと思っております。

どんどんと感染が拡大していくのを何としても防がなければならないと思っております。それで、そのためには県民の皆様のご協力が不可欠であります。今日も私から県民の皆様をお願いいたします。

1点目でありますけれども、県外との往来を控えてください。出張や研修などもですね、控えてくださるよう、当面の間見合わせていただきますようお願いいたします。

2点目は、法要などの行事は、当面の間、県外からの参加を見合わせていただきたいと思っております。

それから3点目ですが、不要不急の外出は控えていただきたいと思っております。明日、明後日、この週末でもですね、慎重に行動してくださるようお願いいたします。ご自分と周りの方、また大切な方々のためにもですね、くれぐれも慎重な行動をお願いしたいと思います。

それから4点目ですけれども、県外にいるお子さんやご親族などには、当分の間、来県を

控えるようご家族からお伝えしていただきたいと思います。また、すでに県外から来県された方はですね、2週間程度、自宅待機や在宅勤務などにより外出を控えていただきたいと思います。

昨日お話ししましたが、転入ですね、市町村の転入窓口において、新型コロナ感染拡大防止についてのお願いとお知らせのリーフレットをですね、配っていただいております。今日から空港でも配っていただくこととしております。

それから、実は感染拡大というようなことではありませんけれども、私から5点目のお願いをいたします。感染された方やそのご家族、医療従事者など関係者等に対する差別や偏見、いじめ等が生じないように、そういった良識ある行動を取っていただきたいと思います。病気になった方を差別したりいじめたりするということは、あってはならないことだと思っています。ぜひそういった行動は取らないようにしていただきたいと思います。

それからですね、お願いはその5点でございますけれども、報道などで、マスクを手作りしてですね、児童・生徒や、また施設にお届けしてくださる方々の、本当に素晴らしい行動が報道で見受けられます。本当に新型コロナのことでどうしても殺伐とした風潮になりがちなものですから、そういった本当に心がほのぼのとするような活動はですね、素晴らしいなと思っております。

それで、先ほど私から指示したのですけれども、マスクの作り方といったことをですね、県のホームページにもこれから載せてほしいということをお願いしておりますので、今すぐということではありませんけれども、マスクの作り方というようなことを県からも皆さんにご紹介をして、ぜひご活用していただければというふうに思った次第でございます。

最後になりますけれども、入院されている方の1日も早いご回復と、そして日常生活へ復帰されるということを心から願っております。この新型コロナとの闘いというのはまだまだ続くと思います。息の長いそういう闘いになるかと思っておりますけれども、なんとしてもですね、これは1日も早い終息を目指すんだという思いを持って、県民の皆さんと一丸となって取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞ一緒になって乗り越えてまいりましょう。よろしく願いいたします。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

日本経済新聞の浅山です。首都圏のほうではですね、次に休業要請をどうするか、またその場合、いわゆる補償をどうするかというところまで議論が及んでおります。今の段階、山形県はですね、自粛ということかと思うのですが、このあたりは、あつという間にまたこれから感染者が増えた場合を想定すると、知事の頭の中には、やはりいずれはそういうことも必要なのか、それともその場合補償はどうするのか、このあたり、何かお考えがあればお聞かせください。

知事

はい。仮定のことを申し上げるわけにはいきませんが、これからどんどんと拡大していった場合にはですね、そういったことも考えなければならないと思っています。

ただ、今の時点では、とにかくこの感染経路を特定して、封じ込めに万全を期すということが現在の県の役割かなと思っています。

ただ、本当にいずれかの日にですね、どんどんと感染爆発みたいな事態になったら、それは当然きちんと対処しなければならないことだというふうに思っています。規制と、またそういう様々な、なんと言うのでしょうか、企業とか生活に対するしっかりとした取り組み、そういったことをですね、組み合わせてしっかり行わなければならないということになるかと思っています。

記者

いわゆる補償も含めた形も検討が必要ではないかという。

知事

補償という言葉を使えるかわからないですけど、東京都は協力金というような言葉を使っておられると聞いておりますけれども。政府の緊急事態宣言の中で行われている取り組み、経済対策でありましたり、また、東京都のやり方でありましたり、様々なところの取り組みをですね、しっかりと参考にしながら考えていきたいというふうに思います。

記者

はい。ありがとうございました。

記者

毎日新聞の的野です。4点目のお願いのところ、県外にいるお子さん、親族には来県を控えるようにご家族からお伝えしてくださいとのことだったのですが、例えば、里帰りの出産だとか、そういった事情で帰られる方もいらっしゃるかと思うのですが、県外には避難のような形でそういった7都府県から来るような話もニュースになっていると思いますが、そのあたりを踏まえて、改めてどのようなメッセージを県民の方にお伝えしたいかというのを、1点伺いたたいです。

知事

そうですね、それはもちろん事情によるかとは思いますが、ただ、いらっしゃるにしても、その2週間、どうしてもこちらにいらっしゃるような内容であれば、こちらにいらして2週間程度はやはり健康観察をしてですね、周りの方々、大切な方々のことも考えて、そういった行動をお願いしたいというふうに思っております。

記者

河北新報の岩田です。32例目の方は中学生ということで、中学生の方というのは確か初めてだったかなと思うのですが、県内でも各市町村で、感染者が出ていなくても学校を休校延長したりとかやっていて、県ではこの間、チェックリストなんかを作ってですね、体制整備できたところから再開するという方針を出されていますけど、その後始業した学校が県立学校であるのかということと、あと、その時は県外との往来歴のですね、聴取りだとか、体制整備をすれば再開できるということでしたけど、そういったことがなくても県内で感染がですね、広がっている現状を踏まえて、そういった再開方針に変更はないかということをお伺いしたいと思います。

知事

再開方針というのは、14日頃から再開するという先般の方針ですか。

記者

そうですね。順次体制整備できたところから、というところ。

知事

そうですね、その50項目の基準をクリアしてからというようなことが要因になったのか、あるいは、県内でどんどんと感染確認がされているという状況、そういったことの要素のほうは私は影響が大きいのかなと思っておりますけれども、逆にですね、始業式だけして、そのあとまた休校というようなことに変更したところがあるというふう聞いております。

ですから、やはり生徒さんの安全が第一ということで考えておられるのかなと思ってます。なお、教育委員会がおりますので、聞いてみたいと思います。

教育次長

教育次長の大場と申します。チェックリストについてですけども、今、各学校で点検というふうなことを順次進めております。受入体制ということで、万全の体制を取るために、より慎重に検討というふうなことで行っております。今のところ、始業とかそういうふうなところで決めたとかですね、そういうふうな検討をしているというところはございません。なお、一層慎重に検討していきたいと思っております。

記者

共同通信の白神と申します。先ほどマスクを手作りしている人たちが、自助努力でがんばっていらっしゃるというお話だったのですけれども、本来ならばやはりこれは行政がなんらかの供給という面では音頭を取ってやっていくべきなのかなというふうに思うのです。

けれども、学校や福祉施設には配布、県内の業者と協力して無償配布する予定があるというふうにお伺いしていたのですけれども、一般の店舗とか一般の県民の方々に、こういう工場を稼働して何かマスクを供給するというような案は、今のところあたりしまずでしょうか。

知事

ええ、もちろん最終的にはそこを目指しています。ですが、医療機関には政府のほうから、なんとかこう、間に合う程度で少しずつ入ってきているということを知っています。

それからですね、学校なのですけれども、文科省のほうから、4月中に10万枚、5月にも10万枚、布マスクがですね、届くということが、お知らせがあったということでもありますので、学校はそこでマスクが配布されるということになるかと思っています。

それで施設のほうはですね、施設と学校、両方県は考えておりましたけれども、ただ、県内の製造がなかなか、フル稼働をしてもですね、全部は間に合わないような状況でありますので、そうすると、施設のほうは県も、学校は文科省から来るということがわかりましたので、施設に関して、県は供給をしたいというふうに考えております。

あと、さらにその先、さらに、やはり県内で製造したマスクをですね、一般のお店で売っていただいて県民の皆さんに届くようにしたいというふうに考えております。もちろんその前に流通がですね、マスクの流通がしっかりと復活してもらえるのが一番いいかなと思っていますけれども、なかなかそれが見えないですね。たくさん作られているということはよく聞くんのですけれども、どこにあるのかちょっとわからなくて、民間の店舗に並ばないというような、本当に不思議でなりません。本当に県民の皆さんの手元に届くようにしたいなと思っています。

そして私が申し上げたいのは、やはり作れる方がありますので、手作りでもですね、その場をしのいでというようなことも考えられますので、愛のマスク運動でも言うのでしょうか、ボランティアというようなこともですね、防災くらし安心部で音頭を取って、そういった運動もですね、していつてもらえればなというふうに思っているところです。

記者

すいません、その施設が先だとは思いますが、その先、その一般のお店でも流通できるようにしたいというのは、もう県として動かれているということでもいいのでしょうか。

知事

はい、ですから、順序なんですね。製造するところは大体今決まってきた、手を挙げて製造を始めているところが出てきておりますので、そこを、やはり優先順位で、まず施設というところから始めて、その次にやはり一般店舗でも販売して、県民の手元に届くよう

にというようなことを考えております。それを目指しています。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

荘内日報の松田です。よろしく申し上げます。連日感染者が発生していて、いろいろ各地域の保健所などで行動歴などの調査、聴き取りなどをしておりますけども、次々と感染者が出てくるわけで、人手が足りない、マンパワーが足りず、この人の聴き取り調査をしたら次の人が出てきてというような状況にあると思います。こうした中で、いろんな総合支庁単位でいろいろフォローしていくという話も聞いておりますが、何かしら県のほうで人員増強とか、そういった対策は何か考えていますでしょうか。

知事

はい。保健所が大変忙しくなっていて、やはり長期戦になるということも予想されますし、一時的と言いますかね、保健所だけで業務オーバーとならないようにですね、負担がこれ以上かからないように、やはり県庁全体を見渡して補充というようなことを指示したところであります。

記者

そうすると今後は、まだ、例えば3日、4日経っても行動歴が全くわかっていないような、感染経路がわかっていないような方もこれから調べが進んでいくような形になりますか。

知事

もちろんできる限り感染経路を特定していくという作業は大変重要になってくると思います。ただ、どこまでできるかというのは、それはわかりませんが、できる限りそういうことをしていきたいと思っています。

記者

ありがとうございました。

記者

明日ですね、危機対策本部というのが行われるというご案内を頂戴しているのですけれども、これはこれまでの対応について確認し合うといったような性格のものなのか、それともさらに踏み込んだ新しい対策をですね、メンバーで決めようというようなことなのか、どちらでしょう。

知事

はい、実は明日の本部員会議のですね、内容がどうなのかということは、まだ私聞いておりません。これまでの例ですと、各部局で情報をしっかりと共有し合って、それぞれの部局から情報を出し合ってますね、共通認識を持って、そのあとしっかりと取り組むということがこれまでの内容ですので、一般的にはそういうふうになるのかなと思っています。

記者

あと、知事、昨日はマスクをせずに会見に臨まれましたが、今日また改めてマスクをなさってというあたりは、どんなご判断があったのでしょうか。

知事

はい。昨日はですね、もっと大きな声でというような声もあったので、ここでお話をする時だけマスクを外して、皆さんとは、マスコミの皆さんとちょっと離れておりますし、それでなるべく大きな声でお伝えしようと思って、ここに来る直前に外してまいりました。

ですがですね、私として、マスクをしていない私の映像を県民の皆さんが見て、「ああ、マスクしなくてもいいんだ」というようなふうになっても、やはりそれもよろしくないかなと思って、とにかくこのボリュームを上げてくれということを先ほどちょっと申し上げて、マスクはして、この会見をさせていただくことといたしました。

記者

わかりました。ありがとうございます。